【樹木・草花の部屋】

アカエゾマツ（マツ科マツトウヒ属　Picea glehnii）

和名；アカエゾマツ(赤蝦夷松)　　別名；　英名：
　マツ目　常緑の大高木
原産地；
花言葉；
花の色；

⇒　写真－１　アカエゾマツの樹形
撮影日：２０１２年１１月１１日
撮影場所：東京都昭島市　昭和の森にて
撮影者：M さん

　珍しい樹を見つけました。アカエゾマツです。樹皮がエゾマツより赤みがかっているのでこの名があるそうです。
　条件が良ければ 40m 以上の大木となる場合があるそうです。

写真－２　アカエゾマツの枝ぶり　　⇒

撮影日：２０１２年１１月１１日
撮影場所：東京都昭島市　昭和の森にて
撮影者：M さん

　現在は北海道以外にはわずかしか分布していないそうですが、最終氷期には、東北地方にも広く分布していたことが化石資料から知られています。しかし最終氷期が終わると、気温の上昇と降雪量の増大のため、ほとんどが姿を消し、岩手県の早池峰山にごくわずかに分布するアカエゾマツは、その最後の生き残りだそうです。なんで、昭和の森に植えられているのかはわかりませんが・・・。

【樹木・草花の部屋】

写真－3　アカエゾマツの葉　　⇒
撮影日：２０１２年１１月１１日
撮影場所：東京都昭島市　昭和の森にて
撮影者：M さん

アカエゾマツの葉は、先端が分岐せず 1 本の鋭線形の針葉であり、断面は 4 稜形で、気孔列（葉の表面で白い線に見える部分）が 1 面に 1 列づつ、合計 4 列ある点が他の針葉樹との区別点。葉は数年維持され、枝には重々しいほどの葉がついている。枝は暗茶褐色で、当年枝は緑色で白色の毛が生える。球果は長さ 4.5-8.5cm 程度。

＜ちょっと一言＞
この地域は、かつて、陸軍航空工廠があったそうで、その跡地が昭和の森。その一角には航空機会社があります。もと、滑走路の一部はショッピング街に変身。したがって、自然林ではなく、人工的に創られた森。だれがアカエゾマツに興味を抱いて移植されたのか・・・。